

## 令和8年度 士幌町立中士幌小学校 学校経営方針

### 1 学校経営の基盤 「一人一人が自分とみんなの幸せを考える学校（ありがとうと何でもできる）」

北海道教育の基本理念（「自立」と「共生」）、十勝管内教育推進の重点、士幌町教育目標・教育大綱・教育行政執行方針、学校教育・学校経営にかかわる法令等に基づいて本校の教育目標の具現化に努める。

### 2 中士幌小学校の教育目標及び重点化した目標 ～ウェルビーイングの実現を目指して～

教育目標	重点化した目標
<input type="checkbox"/> よく考える子ども	<input type="checkbox"/> <b>深い学びを通して根拠をもって自分の考えをもつ子供（ありのままに）</b>
<input type="checkbox"/> 思いやりのある子ども <input type="checkbox"/> 明るく元気な子ども	<input type="checkbox"/> 一歩踏み出し粘り強く行動する子供（なんとかなるさ）
<input type="checkbox"/> がんばり強い子ども	<input type="checkbox"/> 多様な運動に取り組む子（やってみよう）

### 3 学校経営の具体的な目標等（ウェルビーイングを目指して）

#### (1) 学力の向上【教務部、研修部を中心に全職員で】

- ① 深い学び（知識と知識、知識と技能などが結びついて概念化する）と学び方の習得の実現
- ② 校内外の研究の充実及び発表等（河川、研修）を通じた授業改善→計画、実践、振り返り
- ③ 情報活用能力の育成（低・中・高それぞれのゴールの明確化）→ 主体的・対話的で深い学び
- ④ 読書活動の充実（町図書館、町教委との連携）、
- ⑤ **読む力、書く力の向上（言語化する力）**

#### (2) 豊かな心の育成【指導部を中心に全職員で】

- ① 場に応じた挨拶・返事、正しい言葉遣いの励行（まずは教職員から）と「希望と勇気、努力と強い意志」の育成
- ② 心理的安全性のある学級経営→「なんとかなるさ」「生徒エージェンシーへの意識」
- ③ いじめ・不登校の未然防止、異学年交流

#### (3) 体力の向上【指導部を中心に全職員で】

- ① 体育授業の充実、運動する環境整備（巧緻性の向上）、異学年との集団遊び
- ② 系統的な健康教育（保健、安全、食育、基本的な生活習慣）

#### (4) 特別支援教育の充実【特支教諭を中心に全職員で】

- ① 個に応じたきめ細かな指導
- ② 専門性を高める校内・校外研修の充実

#### (5) 保護者・地域・関係機関との連携推進【全職員で】

- ① 積極的な情報発信（学校便り、HP、学級通信等）※プライバシーへの配慮
- ② 価値ある連携・交流授業の促進（保小、小小、複式校、小中、小高）
- ③ 保小中高、CSの推進（見守り隊、出前授業等）

#### (6) 働き方改革【全職員一人一人のウェルビーイングを目指す】

- ① 職員一人一人の学校改善方策の実現
- ② 校務支援システム・ICTの活用推進

#### (7) 総合的な学習の時間を中心としたカリキュラムの充実【授業改善のその先を見通して】

- ① 総合的な学習の時間の充実（河川学習を取り入れたカリキュラム作りを通して）
- ② 教育課程全体と情報活用能力、総合的な学習の時間を中心とした他教科及との関連の明確化
- ③ 学校行事の目標設定の工夫

※ 深い学びを通して根拠をもって自分の考えをもつことができたか検証する。

## 経営者のスタンスと教師の姿勢

### (1) 経営者のスタンス

- 改善点が見つかったら改善する。
- 礼を正し、時を守る。
- 報告連絡相談を欠かさないようにする。
- 授業づくり等を通じた教職員とのコミュニケーションを大切にする。
- 保護者、地域との連携を大切にする。
- すべての責任は校長にある。

### (2) 求める教職員の姿

- 熱き思いを忘れず授業改善に努める。
- 明るく挨拶するよう努める。  
(来客者より先に挨拶することを心がけ、電話では、学校名、名前、あいさつ。)
- 丁寧な言葉遣いに努める。(反対は、相手への尊敬の念がない。)
- 親の気持ちに立つ。
- 服務規律と健康管理に努める。  
(情報管理、体罰、お金、飲酒等は気を付け過ぎることはない。)  
(体調が悪い場合は、声を掛け合い休む、休ませる。)

### 「教師十戒」 毛涯章平著 『肩車にのって』より

- 1 子どもをこばかにするな。教師は無意識のうちに子どもを目下の者と見てしまう。  
子どもは、一個の人格として対等である。
- 2 規則や権威で、子どもを四方から塞いでしまうな。必ず一方を開けてやれ。さもないと、  
子どもの心が窒息し、枯渇する。
- 3 近くに来て、自分を取り巻く子たちの、その輪の外にいる子に目を向けてやれ。
- 4 ほめることばも、叱ることばも真の「愛語」であれ。愛語は、必ず子どもの心に しみる。  
※「愛語」…相手の身を思いやって語ることば
- 5 暇をつくって、子どもと遊んでやれ。そこに、本当の子どもが見えてくる。
- 6 成果を急ぐな。裏切られても、なお信じて待て。教育は根くらべである。
- 7 教師の力以上には、子どもは伸びない。精進を怠るな。
- 8 教師は「清明」の心を失うな。ときには、ほっとする笑いと、安堵の気持ちを おこさせる心やりを  
忘れるな。不機嫌、無愛想は、子どもの心を暗くする。  
※「清明」…自然で明るく、ゆったりすること
- 9 子どもに、素直にあやまれる教師であれ。過ちはこちらにもある。
- 10 外傷は赤チンで治る。教師が与えた心の傷は、どうやって治すつもりか。